



『より善い人間関係』を築くために

校長 海 頭 巖

つい先日お正月を迎えたと思っていたら、もう二月の声がそこまで届いてきました。思わぬドカ雪に子どもたちは大喜びだったのですが・・・。
さて、ちょっとおもしろい話を知ったので紹介しましょう。

古代ゲルマン人たちは、太陽が出るときに音がすると感じたそうです。さて、それはどんな音だったのでしょうか。次の中から選んでください。

①ヌーッ ②ジャジャーン ③サンサン ④ポン！ ⑤出たーっ！

よく考えられましたか。正解は③サンサンです。（3 番だけにサンサンと、シャレを言っているわけではありません。）古代ゲルマン人たちは、太陽の音を『sun』と表現したそうです。だから、太陽のことを英語で『sun（サン）』というのだそうです。さらに、漢字の『音』にも太陽が隠れているではないかというのです。『日（太陽）』が『立』ちあがるで、『音』と。なるほどですね。実は『sun（サン・太陽）』と『sound（サウンド・音）』の語源が同じという説もあるようです。日本でも太陽が輝くことを『サンサン（燦々）と輝く』などと言います。（これもシャレではありません。）ひょっとすると古代ゲルマン人と日本人は全く同じように太陽の音をとらえていたのかもしれない。

私は、朝起きて洗面を済ませたら庭に出て、お日様（お天道様）に向かって柏手を打ち、拝む習慣があります。先の話のことを知ってから、本当に音がするのかと、毎日のように耳を澄ましているのですが、音は何も聞こえません。（当たり前のことですね。）でも、『sun』と『sound』がともにやって来る朝。何となく素敵ではないですか。

実は、お日様（お天道様）を拝む習慣のほかにも、朝晩に神仏を拝む習慣もあります。（特に信心深いわけではないのですが…。）子どもの頃、祖母が神仏に手を合わせて拝んでいるのを毎日見ていたので、影響を受けたのかもしれない。子どもの頃は手を合わせてよく頼みごとばかりしていたものです。「テストで良い点数がとれますように。」「野球の試合、勝てますように。」などと、勝手なお願いばかりしていました。努力をさほどしないのに頼んでばかりだったように記憶しています。ところが、大人になって宮本武蔵の『神仏は拝んで頼まず』の言葉に出会い、感銘を受けてからは、頼みごとは全くせず、ただ「ありがとうございます」と感謝のことばを言って拝むだけになったのです。おそらくもう四半世紀を過ぎていると思います。

『人と人がより善い関係を結んでいくための原動力は「感謝の心」である。』とか、『より善い人間関係を築く基本は「素直な心」である。』とも言われます。お日様（お天道様）をはじめ、私たちを取り巻く自然やご先祖様・親をはじめ関わりのある多くの人々、そして歴史・文化や社会に感謝しながら、先ずはそれらを丸ごと受け入れる「素直な心」を忘れず生活することが大切だと思います。大きな「感謝の心」は、きっと生きる喜びを生み、その喜びが可能性を花開かせ、自己実現へと向かわせてくれるものだと思います。より善い人間関係を築くには、どれだけ「感謝の心」を心の内に秘めることができるかにかかってくると思っています。「ありがとうございます」そんな一年にしていきたいものです。